

「家庭基礎」学習指導案

広島県立熊野高等学校

教諭 片山 慈子

本学習指導案のポイント（高校教育指導課指導主事 松田 百合）

本学習指導案では、高校生が自分事として子育てを捉えられるよう、課題解決型学習を取り入れている。まず親の立場から、第一次反抗期の子供によく見られる状況での対応策を考えさせることにより周囲の手助けが重要であることを実感させ、その後、社会の一員である高校生の立場から考えさせることで、子育てに参画する意欲が高まるように導いている。また授業の各場面で、高校生が具体的な子育て場面をイメージすることができるよう、動画や子育てエピソードを活用したり、子育て中の子供の困った場面を視覚化したりするなどの工夫がある。

1 実施日：令和元年11月8日（金）5時間目13時30分～14時20分（50分）

2 学年・学級：第2学年4組 35名（男子：15名，女子：20名）

3 単元名：子供の発達と保育

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領家庭 科目「家庭基礎」の2内容A 人の一生と家族・家庭及び福祉(3)子供の生活と保育に位置付く。

2018年の合計特殊出生率は1.42となり、少子化の影響から、高校生が子供と触れ合い子供の生活を知る機会も減少してきている。このような社会にあって、子供とのかかわりに関心を持たせ、高校生も子育ての責任を担う社会の一員であるという意識をもって行動していこうとする態度を育成するために必要な、乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供の育つ環境について理解させ、子供の発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割について認識させることを目標としている。

(2) 生徒観

2学年のアドバンストクラスの生徒35名は、課題やグループ活動においても協力的である。中学生の時に保育実習に参加している生徒はいるが、日常生活の中で子供と触れ合う機会があると答えた生徒は約15%であった。約半数の生徒が子供を見てかわいいと感じ、約35%の生徒が将来は子供を持ちたいと考えているが、約6%の生徒は子供に対して苦手と答えている。育児を身近に感じている生徒が少ないと考える。

(3) 指導観

沐浴人形、離乳食、児童文化財などの活用により、子供の発達や生活が身近なものとなるように工夫し、子供の生活についての理解を深めさせるようにする。また、子供の特徴的な行動の様子が分かる動画や場面を表すイラストを提示することにより、子供との生活について生徒が具体的なイメージを持てるようにするとともに、アドバイスカードを参考にグループで子供とのかかわり方を考える活動を通して、子供とのかかわることについての関心や意欲を高めさせるようにしたい。

5 単元の目標

体験活動や児童文化財により、子供の生活と発達、遊びの意義、望ましい子育て環境を理解するとともに、親や大人の果たす役割について考え、社会の一員として意欲的に子供とのかかわろうとする態度を養う。

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・子供の発達、生活に興味・関心を持ち、意欲的に子供とのかかわり方を考えようとしている。	・児童文化財などを通して、子供の遊びの重要性について思考を深めている。 ・子供の望ましい保育環境、その課題について必要な支援を考え、まとめている。	・子供の発達に応じた基本的な生活援助やかかわり方を身に付けている。	・子供の発達、生活、遊びの意義、望ましい保育環境、親や大人の役割について理解している。

7 指導と評価の計画（全7時間）

次	学習内容（時数）	評価					評価方法
		関	思	技	知	評価規準	
1	子供と育ち合う（1h） <b>本時</b>	◎			○	・子供との生活やかかわり方に関心を持ち、適切なかわり方や自分のできることを考え、表現している。 ・子供の発達に適した声かけや態度を理解している。	定期考査 ワークシート
2	子供の発達（2h）			○	◎	・子供の発達について理解している。 ・沐浴実習等の疑似体験活動を通して、子供の発達に応じた援助を身に付けている。	観察・定期考査 ワークシート
3	子供の生活（2h）		○		◎	・子供の生活習慣、遊びの意義について思考を深め、親や大人の役割を含めてその重要性を理解している。	定期考査 ワークシート
4	子育て支援と権利・福祉（2h）		◎		○	・子供をとりまく諸課題を知り、子供の望ましい保育環境と必要な支援について考えている。	定期考査 ワークシート

8 本時の展開

(1) 本時の目標

子供の発達に適したかかわり方を理解し、子供とかかわろうとする意欲を高める。

(2) 観点別評価規準

・子供との生活や子供とのかかわり方に関心を持ち、社会の一員として高校生の自分にできることを考え、表現している。

【関心・意欲・態度】

・子供の発達に適した声かけや態度を理解している。【知識・理解】

(3) 準備物

教科書、ワークシート、ICT教材（プロジェクター、パソコン）、付箋

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
導入 10分	1 第一次反抗期の子供によく見られる状況を動画で見る。	<input type="checkbox"/> 第一次反抗期の子供によく見られる状況を動画で伝える。 <input type="checkbox"/> 動画に現れている状況は子供の成長に欠かせない自我の芽生えに基づくものであることを確認させる。	
	2 本時の目標を知る。	子育て場面から、適切なかかわり方を学び、子供とかかわっていきこう。	
展開 25分	3 子育て中の状況を示した場面Aを絵で確認し、親・子供の気持ちを読み取り、子供に対する適切な声かけや態度を考える。 【個人ワーク】 【グループワーク】	<input type="checkbox"/> 子供への声かけの理由を考え記入するように伝える。 <input type="checkbox"/> 個人ワーク後、グループ内で意見を発表させ、子供の成長にとって、プラス、マイナスとなる部分はないか意見を出し合わせる。 ■親としてどんな子供に育てほしいのかを考えるようにさせる。 <input type="checkbox"/> 机間指導からいくつか紹介、発表させる。	子供の発達に適した声かけや態度を理解している。 【知・理】(ワークシート・定期考査)
	4 アドバイスカードを参考にしながら場面Bに適切な声かけや態度を考える。	<input type="checkbox"/> アドバイスカードを生徒に提示して、場面Bをグループで考えさせる。 ■第一次反抗期対応の事例を紹介する。	
終結 15分	5 高校生の自分にできるかかわり方を考える。	<input type="checkbox"/> 第一次反抗期にある子供と親とのかかわりに関するストーリーから、周囲の支援の必要性に気付かせる。	高校生の自分にできることを具体的に考え表現している。 【関・意・態】(ワークシート)
	6 次時の学習内容を確認する。	<input type="checkbox"/> この学習を通して学んだことをもとに、社会全体で子育てをしていくために、どんな地域社会を目指し、その実現のために高校生の自分が、今そしてこれからできることを考えさせる。	

(5) 本時の評価基準

	関心・意欲・態度	知識・理解
A 十分に満足	どんな地域社会を目指すかを挙げ、それに関連した内容で高校生の立場から、今、そしてこれからできる具体的な行動をワークシートに記入している。	提示したアドバイスカードを参考にして子供の発達に応じた声かけや態度を具体的な理由とともに場面Bでワークシートに記入することができる。
B おおむね満足	どんな地域社会を目指すかを挙げ、高校生の立場から、今、そしてこれからできる具体的な行動をワークシートに記入している。	提示したアドバイスカードを参考にして子供の発達に応じた声かけや態度を場面Bでワークシートに記入することができる。
C 努力を要する生徒への手だて	どんな地域社会を目指すか、また高校生の立場から何ができるか、具体的な場面をイメージさせ、考えられるように指導助言する。	提示したアドバイスカードを参考にしてみるように指導助言する。